



「これからは おいしさプラス 美容と健康にいい 特産品づくりですね」

農産物の機能性を研究し、付加価値の高い加工食品を開発する県立広島大学。

地域資源をマネーに

- 22 ニュースワイド
- 20 市政トピックス
- 24 カメラレポート
- 28 お知らせ



宮原のイルミネーション

宮原の イルミネーション

私が選ぶ庄原の宝

東城町宮原のイルミネーションは、冬の風物詩として年々人気を集めています。

「冬の夜をにぎやかにして、明るい気持ちで新年を迎えよう」と、久代十区下の青年たち5人が平成9年から始めました。現在は、久代十区上の青年や久代東自治振興区も加わり、地域をあげてのイベントに成長しています。

このイルミネーションは、タワー状のオブジェとアニメキャラクターが特徴で、毎年違うアニメキャラクターを目当てに、「今年もキャラクターは何？」と親子連れの楽しみになっています。また、自宅や庭木などにも飾りつけ、地域一体が温かい雰囲気になっていきます。

国道182号線を通る際には、ぜひ「宮原のイルミネーション」を楽しんでください。

横山茂伸（東城町）

次世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、市民が庄原市全体の宝として選ばれたものを紹介するコーナーです。

応募方法

名前と住所をご記入のうえ、「ここが好き」「ここがすばらしい」「こんな保全活動をしている」など、「庄原の宝」への思い入れを200字程度にまとめ、写真1枚を添付して、郵送またはメールでご応募ください。

応募先

企画課広報統計係
☎0824-73-1159
メール kikaku-toukei@city.shobara.hiroshima.jp

備北交通に最新鋭貸切バス登場!!
充実の新設備!!化粧室と洗面台を設置
36名限定の新車登場記念プラン!

有名旅館で本場のカニ会席と湯比べの旅
皆生温泉 たるや 三朝温泉 依山楼 岩崎 玉造温泉 白石家
旅行期間 1/17(土) 12/20(土)-1/16(金) 12/19(金)-1/10(土)
旅行代金 お一人様 大人 12,000円 小人 11,000円

飛騨温泉「花扇」、山代温泉あ「ホテル百万石」に泊まる
上質な高山・冬の白川郷 雅な旅
旅行代金 お一人様
4名以上 59,800円
3名一室 64,800円
2名一室 72,800円
旅行期間 1/18(日)~20(火)

有馬温泉の名旅館 兵衛向陽閣に泊まる
赤穂義士祭となんぼランド花月
旅行期間 12/14(日)~15(日)
旅行代金 お一人様
4~5名一室 38,800円

ICカード「パスピー」
使い方はタッチするだけで簡単!便利!
好評発売中!!
PASPY
現在高速バスでご利用いただけます
■お求めは、庄原バスセンター・三朝バスセンターまで

今年のおもしろく忘年会に!年初め新年会に!

広島県知事登録旅行業者代理業第70号
ひろでん中国新聞旅行 備北交通株式会社
たび館 庄原 TEL(0824)72-7440
〒727-0011庄原市東本町三丁目11番16号
総合旅行業務取扱管理者 森久昭博
営業時間(月~土) 9:00~18:00 ※日・祝はお休みです

地域資源をマナーに キーワードは「農商工連携」

原油・原材料価格の高騰をはじめ、世界的金融危機などの影響を受けて、国内の景気が急速に悪化しています。本市でも「農業資材が高くなった」「観光地にお客さんが少ない」など、景気の後退に対する不安が広がっています。そんな中、地域資源を有効活用したり、農商工連携に取り組んだりして、地方に元気を取り戻そうという動きが全国各地で生まれています。今月は、これらの事例から地域経済を活性化させるヒントに迫ります。

◎地域資源を生かす 身近な地域資源に目を向け、新しい価値を創造する3つの取り組みを紹介します。



もぎたてりんごのおいしさに笑顔



「大根ってこんなに簡単に抜けるの? とっても楽しい」と喜ぶ参加者



事例1 農村資源を
観光ビジネスに

しょうばら さとやまバスツアー

広 島市から庄原市へ観光バスを走らせる「しょうばらさとやまバスツアー」が、市内の「食べる」・「観る」・「遊ぶ」・「買う」の各スポットをつなぎ、新たな経済効果を生んでいます。

11月までに企画したツアーのうち、最少催行人数を越えた15企画23便に797人が参加しました。参加者は60歳前後の女性が大半を占め、大根の抜き取りや山菜採りなどを体験できるメニュー、地元ガイドによる山野草の見学や、地元料理が人気を集めました。これまで観光資源として生かされていなかった農村資源にスポットをあてたことが特徴です。また、観光消費額を高めるため、各コースには特産品の販売施設と地元での食事を必ず組み込むなど、11月現在で約680万円の直接消費が推計されると農工観光課は試算。「チラシの作製費など、年間予算100万円でも継続するメリットは十分」と考えています。

このバスツアーは、地域の隠れた観光資源を掘り起こし、庄原市へ多くの観光客を呼び込もうと、市や観光協会などで組織する「庄原市観光キャンペーン実行委員会」が始めました。地域の宝や観光資源に精通した市の観光担当者が企画し、備北交通(株)と共同でチラシを作製。市町情報ステーション「ひろしま夢ぷらざ」など、広島市内で配布しています。

昨年12月の試験運行から本年案のバスツアーも行われました。「今後、福寿草の見学ツアーなど、自治振興区の活動や行事とからめたツアーをやりたい。どんな企画を持ち込んでほしい」と地域住民のアイデアや活動を歓迎しています。

商工観光課の山田聖三係長は「今後は、四半期ごとや年間スケジュールを入れたチラシを作り、今年の参加者へダイレクトメールを発送するなど、より効果的なPRに努めていきたい。また、民間の旅行代理店が、このツアーを参考に庄原市の新たな魅力を発見し、いずれは民間活力で多くの観光客を庄原市に呼び込めるようにしたい」と抱負を語ります。

バスツアーをきっかけに、農村資源を掘り起こし、観光ビジネスとしてもうかる仕組みづくりが進んでいます。

大根の抜き取りなどを体験できるメニューや地元ガイドによる山野草の見学が人気を集めたバスツアー。



田舎料理や買い物もツアーの人気



「約20人の新規雇用を予定している」と西本社長。



木くずから排ガス凝集液 (BCL) の原料を抽出



さまざまなテストが行われている実証実験棟

事例3 未利用資源の活用で新産業

木質バイオマス 利活用プラント整備

環境機器を製造する(株)ジュオンは、間伐材からリグニンなどを製造する工場の建設を進めています。未利用の木材から新たな価値を生み出すこの事業は、新産業の創出や林業振興につながることも、雇用の確保にも期待が寄せられています。

長期にわたる木材価格の低迷などによって、森林の手入れが適切に行われなくなる中、市と(株)ジュオンは、里山再生と環境保護を目指すため、市内の森林資源を活用した「木質バイオマス関連事業の推進に関する協定」を平成19年3月に締結。昨年度、市は市営工業団地内に実証実験棟を整備し、(株)ジュオンが木くずからエタノールを製造する実験を始めました。

実証実験により、エタノールの製造工程でできる新たな資源の増産に成功。現在、(株)ジュオンの製造部門を担う子会社グリーンケミカル(株)を設立し、間伐材などからプラスチックの原料となるリグニンや、排気ガスを浄化する排気ガス浄化溶液、インクの原料となるセルロース系炭素を製造する「木質バイオマス利活用プラント」の整備事業を進めています。

グリーンケミカル(株)の計画によると、工場は国の交付金を受け、本年度から平成21年度末にかけて建設。操業は平成22年度からで、市内の間伐材などの林



保命酒「林檎の雫」(上)、たかのりんご酢(下) 「地元の良い素材を活かし、全国に誇れる商品を作りたい」と笑顔で語る後藤さん。東城町産のりんごやピオーネを使用した酢も人気。



事例2 農産物に付加価値を

りんご農家と 食品加工メーカーがコラボ

この秋、特産の高野りんごを使用した新商品が次々と発売されました。

その一つが「たかのりんご酢」。昨年10月、東城町で酢作りを営む(株)後藤商店の後藤由紀子さんは、「地元の良い素材を活用して、新しい商品を開発したい」と、高野町果樹園芸組合の田中定美さん(りんご酢の製造を持ちかけました。りんご酢は、青森や長野など、りんごの産地には必ずある商品。いずれは作ってみたいと考えていた田中さんは、「酸味が強く加工用に適している。紅玉なら美味しいりんご酢ができるかもしれない」と意気投合しました。

(株)後藤商店では、上品な味わいや風味を引き出すために、昔ながらの製法(静置発酵)で、じっくりと手間と時間をかけて製造。「紅玉を使用したことで、りんごの風味がよりいっそう引き立つた」。製造元の納得のりんご酢が、9月から各りんご農家の直売所

に並びました。田中さんは「りんごだけを直売するより、商品が多いほうが消費者に喜ばれ、直売所の魅力も高まる。今後もしりんごの可能性を追求していきたい」と話しています。

後藤さんは「市内には、こちらの目がキラキラする特産品がたくさんある。地元のよい素材を地元商店が生かすことで、全国に誇れる商品がもっともっとできると思う」と地元農家との連携を目指しています。

10月には、福山市の酒造会社と高野りんご加工組合が連携して、りんごジュースを使用した保命酒「林檎の雫」も発売されました。長曾守人組合長は「今回はりんごジュースの販路拡大という大きなものではないが、新商品ができることで、高野りんごの知名度アップにつなげていきたい。現在、りんごジュースと焼酎で新たな商品を企画中で、これからもさまざまな連携で新たなビジネスチャンスを生み出したい」と張り切っています。

特産加工品が少ないといわれる庄原市。農業者と商工業者の連携で、新商品の開発が期待されます。地残材を年間7,200ト利用する見込みです。

グリーンケミカル(株)の西本清宏社長は「我社のコンセプトは自然に存在するものをうまく利用すること。間伐材など山に放置され未利用の森林資源を活用することで、里山の再生、庄原市の活性化につなげていきたい」と抱負を語ります。

西日本一の面積を誇る庄原市。その8割を占める広大な森林が「強み」となれば、地域の活性化にはずみがつきます。

農商工連携で地方再生

国は地方の元気を取り戻そうと、本年7月に農商工等連携促進法を整備しました。農林水産省と経済産業省が一体となって、農商工連携の取り組みを支援するため、両省で200億円を超える関連予算を措置しています。その狙いについて、中国経済産業局中小企業課の長尾博行課長補佐にお話を伺いました。

農林水産業の経営強化

農 商工等連携促進法を整備した背景には、地域経済の活性化という観点から2つの理由があります。

一つは、都市と地方の経済格差の拡大です。農林水産業の就業所得は低水準で推移しており、農林水産業が盛んな地域は、有効求人倍率が低水準という傾向があります。このまま都市部への人口流出が続くと、出生率の低下と相まって約20年後には中国地方で110万人の人口が減少すると推計するデータもあります。

もう一つの理由は、農林水産業が地方の基幹産業であり、地域経済の重要な担い手であるということです。これまでは、地域経済の活性化を図る手法として、域外から大企業などを誘致して雇用を創出する手法が主流でした。しかし、全国の自治体がいずれに誘致できずから簡単に誘致できません。そこで、地方における基幹産業である農林水産業の経営強化がカギとなります。

ただ、実際には、農林漁業者が生産・加工・販売のすべてを担うのは大変です。そこで、加工や販売については、その分野に精通している中小企業者との連携

によって補うという考え方が農商工連携です。地域発の創意工夫ある取り組みが次々と創出され、そういった取り組みを国が的確に支援できるように、法律を整備したわけです。

農商工連携を進めることで、農林漁業者の経営改善や中小企業者の経営向上、地域の雇用・就業機会の増加などの効果を期待しています。

新商品開発と販路拡大を支援

事業計画を作成し、国の認定を受けると、新商品や新サービスの開発に対して上限3千万円の

補助金に応募できるほか、政府系金融機関の低利融資、信用保証の特例措置、設備投資減税などの手厚い支援を受けることができます。

認定のポイントは、中小企業者と農林漁業者それぞれの経営資源が有効に活用されており、お互いの経営の向上・改善につながる計画であることです。例えば、農業者は連携する中小企業者のニーズや希望納期に合わせて農産物を生産・納品し、これを中小企業者が有する技術力で新商品を開発するなどの創意工夫が盛り込まれていることが必要です。9月以降、これまでに中国地方で8件の事業計画を認定しま



長尾 博行 課長補佐 ●

ながおひろゆき・昭和39年生まれ、岡山県出身。昭和62年入局、平成19年6月から現職。

した。今後、5年間で全国で500件、中国地方では少なくともその1割の50件以上を目標としています。そして、このような事例をお手本として同様の事例がどんどん地域に波及・浸透するよう取り組んでいきます。

なお、農林漁業者の皆さんに農商工連携を具体的にイメージしてもらうため、「農商工連携88選」を選定しホームページなどで公表しています。

我が国の中小企業の技術力は世界にも十分通用するものですし、農産物も食の安全・安心意識の高まりの中で、海外で高い評価を得ています。この両者の連携によって、世界に通用する魅力

的な商品開発の期待がますます高まります。

地方や中山間地域は、多くの課題を抱えています。安全・安心意識の高まりなど環境面の急激な変化が起こりつつある今こそ、まさにチャンスではないかと思えます。庄原市にも、有望な地域資源（農林産品）やがんばる事業者が数多くいらっしゃると思っています。連携して何か新しい取り組みを始めたいとお考えの方は、国の指定を受けた三次広域商工会などの相談窓口にご相談ください。

庄原市から新しい農商工連携の取り組みがでてくることを期待しています。

農商工等連携事業の事例

地元農産物を活用して「高付加価値型介護食品」の開発

（有）援農甲立ファーム × 安芸高田アグリフーズ㈱

（有）援農甲立ファームが米や野菜、薬草を減農薬栽培し、安芸高田アグリフーズ㈱が仕入れ、広島県立総合技術研究所食品工業センターで開発された「凍結含浸法」を用いて、付加価値の高い介護食を製造します。



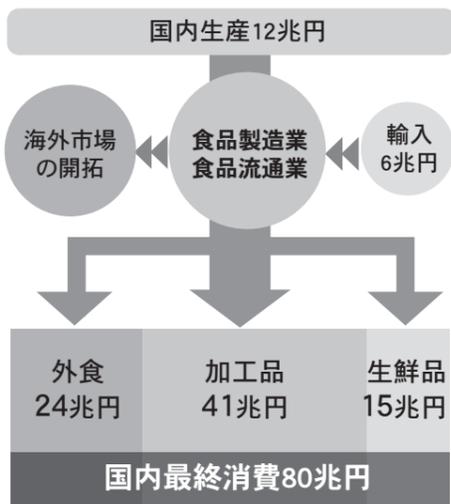
「安芸高田アグリフーズ㈱」は、安芸高田市やJAなどが出資する第3セクター。

農商工連携による効果

- ▶ 消費者のニーズに対応した農林水産業の構築
- ▶ 地域の中小企業の経営向上
- ▶ 地域の雇用・就業機会の増大

【波及効果】

- ▶ 国内産利用の拡大
80兆円の国内最終消費に国産品利用の一層の拡大を図る。（現在12兆円）
- ▶ 食料自給率の向上
平成27年度の食料自給率45%を実現。（カロリーベース）
- ▶ 輸出の促進
農林水産物・食品の輸出額を平成25年までに1兆円規模とする。



詳しくはホームページを

農商工連携の補助金や農商工連携88選など、詳しくは中国経済産業局または中国四国農政局のホームページをご覧ください。
中国経済産業局 <http://www.chugoku.meti.go.jp/> 中国四国農政局 <http://www.maff.go.jp/chushi/>

農商工連携 検索



株式会社キースタッフ代表 鳥巢 研二さん
 ●昭和29年、福岡県生まれ。早稲田大学商学部卒業。味の素㈱入社、平成5年本社調味料課長で退社。マーケティング事務所キースタッフ設立、中小企業診断士として中小企業の支援にあたる。平成10年「食と農をマーケティングする」㈱キースタッフ設立、農業マーケティングに特化した支援を全国各地で実施。農商工連携のさきがけとなる。平成15年㈱に組織変更。●南関東総合コンサルタント協同組合理事長。●鳥巢研二ブログ <http://keystaff.seesaa.net/> で活動を公開

地域資源に10倍の付加価値を!

農商工連携のポイント

専門家の意見

地域資源を生かした特産品開発を専門に、全国各地で農商工連携のさきがけ的事業を支援している鳥巢研二さんに、農商工連携のポイントを伺いました。

共存共栄できる仕組みづくり

地域が発展するためには、地域経済を支える農業者と中小小工業者が元気になることが重要です。そのためには、各事業者が行ってきた取り組みに加え、農商工連携による「地域の食と農ビジネス」を展開することが、地域経済を活性化する上で大変大事なことです。

悲しいことに農業、特に農作物の生産・出荷だけではもうからない時代です。今後は「農業+直販」「農業+加工品製造」「農業+レストラン」「農業+観光」といった二次産業の農業に二三次産

業の機能を付与して、新しいビジネスの仕組みを作らない限り、農業経営は難しいと思います。一方で、商工業者も農業を商売に取り込まないと、生き残れない状況です。

しかし、農業者が農作物の生産に加え、加工や販売、観光までを一手に担うことは不可能で、かといって技術力やノウハウのない商工業者の農業参入には厳しい現実も存在します。そのため、互いに無理をして異業種参入を図るのではなく、連携しながら新産業の創出を目指し、地域内の経済循環を作るのが農商工連携の狙いです。

農商工連携のあり方については、従来の農業者の生産した農作物が市場に出荷され、スーパーなどで売られる流れは、連携ではありません。既存の「生産」↓「加工」↓「販売」の流通過程は、誰かが勝つて誰かが負ける仕組みです。流通過程にはチャネルキャプテン（流通支配者）がいます。現在のチャネルキャプテンは大手量販店です。大手量販店は勝ち組、農業者や中小食品メーカーや中小スーパーは負け組です。今後の「地域の食と農ビジネス」では、「生産」・「加工」・「販売」の流通過程のすべての業種が

共存共栄できるいわゆる「オールWin」の仕組みづくりが前提になります。誰かがもうかって誰かが損する仕組みではいけないのです。

地元を知って出合いを作ろう

まずは地元のことを知ることです。この地域に何が採れて、どこに売られているか、どんな農業者がいるのか、同じまちに住んでいても知らないことが多くあります。反対に農業者も商工業者がどこで何を作っているのかわかりません。

商工業者が産直市で農産物や生産者を調べたり、農業者が商工会に加入したり、農業者と商工業者が知り合うきっかけができれば、農商工連携ビジネスが生まれてきます。

良きパートナーを選ぶ

小規模農業者1人で商工業者に連携を持ちかけても実際には難しいと思います。できるだけ仲間と生産グループをつくり、生産グループと商工業者の連携を考えてみてください。

それと、農産物を買って叩く商工業者とは連携しないこと。農業者にもうけさせ、長く連携し

たいというパートナーを選ぶことです。

規格外農産物を利用する

最近の特産加工品は、むしろ規格外農産物の利用の知恵から始まったものも多くあります。ご存知のようにスーパーの量販店規格は大変厳しいです。そのため、生産者は品質が良くても形が悪い規格外農産物を廃棄するしかないのです。

「地域の食と農ビジネス」では、この規格外農産物をうまく利用すればビジネスチャンスが広がり、収益も上がります。例えば、ジャンボしいたけは量販店規格で価値がありませんが、レストランに出すと「ジャンボしいたけステーキ」として名物料理になります。

出合いの場を創出し、地元企業を支援

信用金庫合同ビジネスフェア

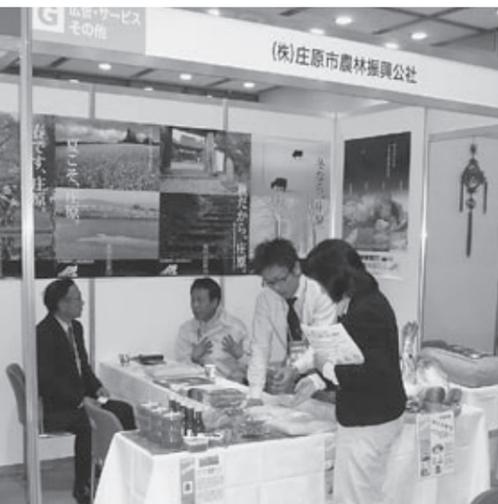
県内4つの信用金庫が11月12日、県立広島産業会館（広島市）で、ビジネスフェアを開催しました。

これは、『「人・街・企業」「出合いと創造」ビジネスマッチング』をテーマに、県内最大のビジネスフェアとして、あらゆる業種が一堂に集まり、交流を図るものです。

今回は260社を超える企業などが出展。庄原市からも農業や商工業など11社が出展したほか、4社が商談目的で来場しました。会場には11,556人の来場者が詰めかけ、出展者は「多くの人との出合いがあり、今後の連携が楽しみ」「意外な業種から商談を持ちかけられ驚いた」など、手応えをつかんでいました。

広島みどり信用金庫の奥田守男課長は「このビジネスフェアがきっかけで、庄原市の企業も大口の契約に結びついた実績もある。今後も、このような出合いの場を提供し、地元企業を支援していきたい」と話しています。

広島みどり信用金庫の奥田守男課長は「このビジネスフェアがきっかけで、庄原市の企業も大口の契約に結びついた実績もある。今後も、このような出合いの場を提供し、地元企業を支援していきたい」と話しています。



(株)庄原市農林振興公社のブース

このように他業界に目を向ければ売り先は山ほどあります。経営はもうからなければなりません。うるさいことを言って買い叩くばかりの量販店規格から離れて、地元の食品加工メーカーやレストランなどを販売先にした方がメリットが大きいと思います。

農商工連携で一次加工をビジネス化する

食品加工メーカーは、農産物をそのまま仕入れて原料に使用しているのではなく、原料規格に合った一次加工品を仕入れていきます。例えば、菓子メーカーは栗そのものを仕入れるのではなく、皮をきれいにむいてすぐに使用できる栗を仕入れます。また、レストランなどでは、カット野菜を仕

入れています。

商工業者がこういったすき間に着目し、ビジネス展開することもあります。一次加工業者がないと農商工連携は不可能です。

地域資源にストーリーを

これからは、お客様が高くても喜んで買ってくれる商品を開発することです。

最近、ご当地レトルトカレーが大人気で、「しまね和牛カレー」は島根県内の道の駅などで、525円で販売されています。一方で、スーパーでは大手食品メーカーのレトルトカレーが100円以下で売られています。この差は何でしょう。もちろん中身や原料費の差もありますが、それ以上にお客様は「商品のストー

リー」にお金を払っているのです。しまね和牛は地域資源です。地域資源には人に語るストーリーがあります。このストーリーにお客様は価値を見出し、喜んでお金を払うわけです。

自分たちの地域に自信を持つ

「庄原市にはいい物がたくさんあって、ビジネスチャンスは無限大にある」と、自分たちの地域に自信を持つてください。そして、自分の身近にある資源を都会の人に売ったら喜ばれるのではないかと発想をどんどんやってみてください。これを農業者と商工業者が一緒になつて考えたら、庄原市はもつとすばらしい地域になると確信しています。

課長に聞く

農村資源を サービス化

商工観光課 ● 岡野 茂 課長



おかのしげる・昭和29年生まれ。
昭和50年入庁、平成19年度から現職。

庄 原市には、おいしい農産物や豊かな自然があります。この農村資源を楽しみながら消費できる仕組みを作らないと、地域経済に活力が生まれてきません。そのことから、農村資源をサービス化して、楽しんでもらうことで地域にお金が落ちる仕組みを作ろうと「しょうばらさとやまバスツアー」を始めました。このツアーで、食べる、観る、泊まる、体験する、買うなどの要素を地域の中にするることによって、もう一度、自分たちの身近な農村資源を見つめ直すきっかけになればと考えています。

また、市の起業支援補助金を活用して農家民泊を始めたり、小学生の農村体験を受け入れたり、農村そのものを観光資源として生かす取り組みも広がっています。

農家民泊では「野菜ができたから、採りに来ない？」など、ホテルや旅館ができないサービスを提供。高野町の農家民泊では素泊まりで、食事や風呂は町内の各事業所と連携してサービスを行うことにより地域内の経済循環を作っています。

小学生の農村体験も、子どもたちに喜んでもらったことが、その家族に広がり、新たな交流を生んでいます。お金もうけだけに限らず、農村資源を生かすことで、地域住民の生きがいや地域への誇りづくりにつながっています。

農家民泊は、旅館業法などまだまだ規制が厳しいのが現実ですが、これからも県へ規制緩和を呼びかけ、農村暮らしや農業と観光を結ぶ新たな産業を支援していきたいと考えています。

庄原市の強みは、農林業です。農工商連携の推進で、この強みを生かした産業の創出や、この強みを生かす企業の誘致も進めたいと思っています。そのためには、もつと情報発信をして、地域住民が情報を共有することが大切だと思います。しょうばら産学官連携推進機構で、企業の農業参入などのセミナーを開催して経営者による事例発表など情報提供に努めるとともに、新たな出会い・連携を応援していきたいと考えています。

最近の食の安全や環境問題などから、農村の持つ潜在的な力に目が向きつつあると実感しています。農村に追い風が吹いている今、農村資源を見つめ直し、農村資源をサービス化して、地域経済を活性化させたいと思います。

芽生えた思い

高 野町野菜組合トマト部会の10人は11月19日、神石高原農業公社を訪れ、特産加工品づくりを学びました。

この農業公社は、量販店規格に合わない完熟トマトを使用し、ケチャップ約15,000本を作り、

道の駅などで販売しています。

トマト部会の峠満重毅部長は「今年はトマトの出荷価格も低迷し、農業を続けていくためにも、加工は避けて通れない。視察をして、自分たちも価格の低い完熟トマトをお金にかえたいと思っただけで、出荷のピーク時は人手が足りず、自分たちでど

うやって加工をするのか、またはどこかの商工業者と連携するのか、具体策を今後みんなで考えていきたい」と話しています。

夜の気温が高いと、一晩で完熟するため計画出荷が難しいトマト栽培。「地域資源に付加価値をつけ、農業を守っていきたい」という思いが広がっています。

加工に取り組み もうかる 農業にしたい



峠さん(上)と視察のメンバー(下)

記者の目

庄原市には農業生産者が多く、第一次産業が元気なまち。しかし、その強みが十分に生かされているかといえば「NO」で、庄原市にはまだまだ「伸びしろ」がたくさんあると取材を通して感じました。景気の後退で、「もうダメかも」とあきらめる必要はないと思います。地域再生への手ごかりは、身近な地域資源を生かし、もうかるビジネスにかえていくことです。また、地域資源がお金になれば、地域に自信と誇りが生まれてきます。日々の生活の中で、地域資源を生かすことを意識しながら、これからも農工商連携や地域資源を活用したビジネスを応援していきたいと思っています。◎

高付加価値商品を研究

県立広島大学を中心として、しょうばら産学官連携推進機構や庄原地域機能性食品研究会では、農産物の機能性を研究し、付加価値の高い加工食品を開発しています。市は平成17年度からこの研究に補助金を交付し支援しています。県立広島大学の武藤徳男教授は「市民の皆さんにもっと大学を活用していただき、一緒に付加価値の高い商品を作りたい。そのためにも気軽に相談してほしい」と呼びかけています。



りんごチップスなど、ビタミンC
が多く摂れる加工食品を開発

参加者の声

里山林の整備でイノシシ被害が減少
川手下地区 ● 梶川 進さん

庄原市森づくり事業を活用し、野生鳥獣による農作物被害を防止するバッファゾーンの整備を行いました。集落では、水稲・野菜などへのイノシシ被害に悩まされていましたが、5畝の里山林を整備したことで、確実に被害が減少し喜んでます。

この事業は、山主と田畑所有者とが話し合い、「集落機能の維持・里山景観の保全」という共通認識を持って取り組むことが大切だと思います。



！ 森林の伐採には届け出が必要です

庄原市森林整備計画に基づいて、森林の伐採が適切に行われているか確認するため、伐採をする方は目的、樹種、面積、間伐、主伐を問わず届け出（申請）が義務付けられています。また、同時に森林の大切な働きを失うことのないよう、伐採の跡地への造林計画の届け出も必要です。自分の所有する森林も該当します。

適切な森林伐採を行うことで、健全で豊かな森林をつくりましょう。

詳しくは、農林振興課林業振興係または各支所地域振興室へお問い合わせください。

● 届け出対象者

- 伐採をする方。
- 伐採後の造林を行う方が異なる場合は、連名（伐採する方と造林を行う方）。

事業の内容は

人工林対策

〜森の機能を回復させます〜

15年以上手入れがされていないスギ・ヒノキの人工林の間伐などに対して補助を行っています。実際の作業はプロにおまかせ!!

- ①人工林の間伐
 - ②台風や大雪による被害木の片づけ（二次被害を防止します）
 - ③間伐用の作業路の整備 など
- ※人工林の間伐作業には、所有者負担金1万円/鈴が必要ですよ。

里山林対策

〜心のよりどころ、里山を美しく〜

マツや広葉樹などの里山林の手入

れ、間伐材の利用、森林・林業体験活動の支援などを実施しています。

1 里山林整備

- ① 放置された里山林の除間伐・下草刈り
- ② 松くい虫被害による松林の整理
- ③ 竹林の伐採および整理による繁茂の防止
- ④ 有害鳥獣の生息の場となっている里山林を整備し、野生鳥獣による農作物被害を防止（バッファゾーン整備）

2 里山保全活用支援

里山林の保全活用に関する住民団体やNPO団体などの自らの取り

組みに対する支援。

平成19・20年度では次の団体が事業を実施しています。

- ① NPO法人七塚自然体験活動研究センターによる里山林整備（七塚町・高原の家）
 - ② 殿垣内組合による炭窯設置（高野町）
 - ③ 板橋東・西自治会による里山林整備（板橋町）
 - ④ 森林・林業体験活動支援
- 森林の機能や林業について学ぶ体験活動に対する支援。
- 平成19・20年度では次の団体が事業を実施しています。
- ① NPO法人森のバイオマス研究会による森づくり体験事業

4 間伐材利用対策

- 木質バイオマスエネルギーの利用普及に関する取り組み。
- 平成19・20年度では次の事業を実施しています。
- ① バイオマスフォーラムの開催
- ② 木材収集システムの実証実験に関する支援



昨年度からは、広島県で創設された「ひろしまの森づくり県民税」を財源とする「庄原市森づくり事業」に取り組んでいます。この県民税は、県民1人当たり年間500円の負担で、県全体では約10億円となっています。この森づくり事業は、手入れが十分にされていない人工林（スギ、ヒノキ）や里山林（天然林、マツ、広葉樹など）の手入れ（間伐など）を行い、森林の持つ多様な公益的機能を維持しようとするものです。現在、平成21年度の事業実施を希望される森林所有者や団体などを募集しています。ご希望の方は、農林振興課または各支所地域振興室へご相談ください。

庄原市 森づくり事業

参加者募集!

農林振興課林業振興係 ☎0824-73-1227

森の再生

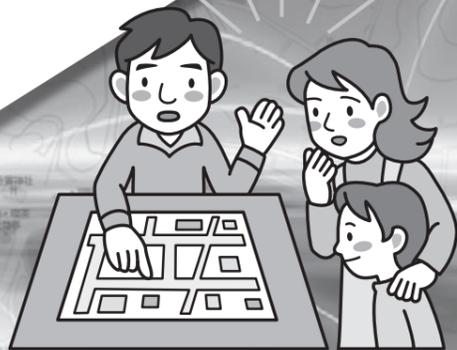
一緒に森づくりをしませんか

- 長年手入れ不足のスギ・ヒノキの森林を所有されている人
- 里山の森や竹林をきれいにしたい自治振興区や集落の人
- 手入れが必要なマツ・広葉樹などの森林を所有されている人
- 森林に興味があり、森づくりに参加したい人

森林の多様な公益的機能とは

- 災害を防ぎます
- 水をたくわえます
- きれいな水を生み出します
- 空気をきれいにします
- 人に安らぎを与えます
- 地球温暖化を防ぎます

地域の助け合いで災害に備える



社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-73-1210

あらかじめ避難支援が必要と思われる対象者を特定し、本人の同意を得て要援護者として登録するとともに、近隣者などに支援協力者としての登録依頼を行い、災害時の避難に備えます。

また、避難を要する災害が発生したときは、支援協力者などの協力を得て、避難情報の伝達や避難場所への誘導を行います。

事業の概要

災害時要援護者避難支援事業

過化・高齢化、核家族化の進行に伴い、一人暮らし高齢者などの「災害弱者」と呼ばれる方が増加しています。

こうした中、市では、民生委員・児童委員の皆さんと連携し、災害弱者が地域の助け合いで安全・確実・迅速に避難できる仕組みづくりに取り組んでいます。

災害時の避難が必要なときに、家族の支援が得られない方や家族の支援だけでは避難が困難な方（要援護者）の把握と支援協力者（近隣者など）の登録を行いますので、市民の皆さんのご理解ご協力をお願いします。

要援護者の把握

- ①まず、行政情報から75歳以上の一人暮らし世帯や75歳以上のみの世帯、重度の障害者や重度の要介護認定を受けている方など、一定要件に該当する方を第1次対象者として抽出します。
 - ②担当の民生委員・児童委員に第1次対象者の氏名を情報提供し、生活状況や地域情報を勘案して支援が必要と思われる在宅の方（第2次対象者）を特定します。
 - ③担当の民生委員・児童委員が第2次対象者のお宅を訪問し、事業内容などを説明するとともに、要援護者としての登録について意向を確認します。
 - ④登録に同意された方を要援護者として認定し、要援護者台帳に登録します。
- ※行政情報などで対象者とならない方であっても、要援護者としての登録を受けることができます。要援護者としての登録を希望される方は、担当の民生委員・児童委員に申し出てください。

近隣者などへの協力

要援護者の認定を行うと、民生委員・児童委員が、該当者の近隣者などに

認知症支援の輪を広げよう



高齢者福祉課高齢者福祉係 (庄原市地域包括支援センター) ☎0824-73-1165

「新しいことが覚えられない」「すぐ前のことも忘れてしまう」など、記憶障害を伴う脳の病気「認知症」は、現在、約170万人いるといわれています。85歳以上では4人に1人と、誰もががかかるおそれのある病気です。

市内でも、10月末現在で介護認定を受けている3,882人のうち、2,162人の約6割弱の方に認知機能の低下があり、日常生活で何らかの支障があると判定されています。このため、認知症の方への支援が大きな課題となっています。

市は、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、①地域の理解や見守りがあるから大丈夫、②早期発見・早期対応ができるから大丈夫、③相談窓口があるから大丈夫、④暮らしを守る制度やサービスがあるから大丈夫、の4つの基本指針を柱に取り組みを進めています。

現在、柱の一つである地域の理解を深めようと、市と市内施設のキャラバン・メイトが各地域で「認知症サポーター養成講座」を開催しています。認知症サポーターは、何か特別なことをやる人ではなく、まず、認知症を正しく理解して、認知症の方や家族に対して温かい目



認知症サポーターの証・オレンジリング
認知症サポーター養成講座を受講された方には、認知症サポーターの証としてオレンジリングが配られます。



キャラバン・メイト
キャラバン・メイトとは、認知症サポーター養成講座の講師役のことで、市内に16人います。

で見守る応援者です。この講座は、職場・学校・自治会・老人クラブなど、どんな団体でもOKです。認知症サポーターになり、一緒に安心して暮らせる地域づくりを進めていきましょう。

キャラバンメイトの目!



磯川由実子さん

認知症の理解を深めよう

キャラバンメイトの活動を通して、『認知症を正しく理解することは、地域での生活を支える器をつくること』と呼びかけています。

実際に認知症の方を介護するなかで、認知症から起こる問題行動に悩んでおられる方も多くあります。そこで知っておいてもらいたいのは、『認知症は病気であるということ』です。そのため『認知症の方の生活を変えよう』とすることは困難なことなのです。有効的なことは、家族や関係する周りの人が、言葉づかいや態度を柔らかくする工夫を取り入れることです。

歩き回りや、排泄の失敗など、行動面での障害が起きてくると、ついつい叱りつけるような口調になり、家族を試しているのではないかと考えたりするものです。しかし、プライドを傷つけるよ



うな表現やストレスをかけることは、関係や状態の悪化につながってしまいます。自身と置き換えて、コミュニケーションをとることが基本なのです。

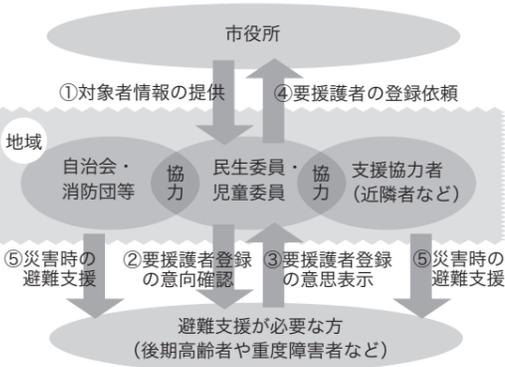
認知症の方を対象にしたデイサービスの利用者さんの中でも、家族や民生委員さん、近隣の方も含めて見守りの態勢を整えることで、驚くほど穏やかになられた方もいました。

地域啓発の活動を続けながら、認知症の理解が少しずつ進んできていること、そのことが地域での支えにつながってきていることを感じています。周囲のさりげない見守りがあれば、住み慣れた地域での暮らしが続いていきます。だからこそ、この活動を続けていくことの大切さも実感しています。

個人情報の取り扱い

民生委員・児童委員は、民生委員法で「守秘義務」が課せられており、個人の秘密は厳守されます。また、庄原市情報公開・個人情報保護審査会に諮問し、慎重な取り扱いを前提に、個人情報に関する収集・提供の承認を得ています。

◎災害時要援護者避難支援事業



求む!企業立地情報

庄原市企業誘致報奨金制度を創設

商工観光課定住推進係 ☎0824-73-1178

報奨金額

企業誘致情報提供報奨金

5万円/件

企業誘致成功報奨金

土地分譲代金の1/100

(限度額1,000万円)

市は、市営工業団地への企業立地を促進するため、庄原市企業誘致報奨金制度を創設しました。

これは、企業立地に関する企業の情報を提供いただいた方を「企業誘致仲介者」として認定し、企業に対する説明会や面接会の立会い、仲介業務を行っていただくことで、企業誘致情報提供報奨金を交付します。また、企業誘致が成立し、操業を開始した時点で、さらに企業誘致成功報奨金を交付する制度です。

平成6年に分譲が始まった庄原工業団地は約4.3haが分譲済みで、現在残り4haの分譲を受け付けています。この制度により、広く市民の皆さんから情報を募り、企業立地を実現していきたいと考えています。皆さんからの情報をお待ちしています。詳しくは商工観光課定住推進係まで。

除雪作業にご協力ください

県や市は、積雪時の通行確保のため、少しでも早く除雪するように努めています。また、市では計画的に大型除雪機械を配備して、積雪量の多い地域の除雪作業の早期効率化に取り組んでいます。

除雪作業は、積雪量や障害物などにより、作業時間を要する場合もあります。また、道路の幅員や構造により、すべての市道を除雪することはできません。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

除雪作業を効率よく行うために

- 車道・歩道上に除雪作業の障害となるものは置かないでください。
- 家や駐車場の出入口は注意して除雪していますが、場合により雪でふさいでしまうことがあります。ご了承ください。
- 道路そばの樹木の枝が積雪でたわみ、通行に支障をきたす場合は、樹木の所有者が撤去するなどの対応をお願いします。なお、特に危険な場合には、伐採させていただくことがあります。



- 問い合わせ
- ▼国道・県道の除雪
広島県備北地域事務所建設局
庄原支局維持課
☎0824-72-2015
(内線4123)
 - ▼市道・歩道の除雪
建設課土木係
☎0824-73-1152
 - 西城支所環境建設室
☎0824-82-2182
 - 東城支所環境建設室
☎08477-215141
 - 口和支所環境建設室
☎0824-87-2113
 - 高野支所環境建設室
☎0824-86-2113
 - 比和支所環境建設室
☎0824-85-3003
 - 総領支所環境建設室
☎0824-88-3065

地域を守ります 整備事業

朝晩も冷え込むようになり、もうすぐ冬本番です。市では、積雪期の住民の安全確保のため、地域自ら除雪に取り組む自治振興区に除雪機を無償で貸し出す「地域内除雪機整備事業」を行っています。

この事業は平成18年度から3年間で、市内の希望する自治振興区に除雪機を配備するもので、本年度が最終年となります。平成18年度70台、平成19年度40台、本年度は39台を配備しました。

自治振興区(自治会)では、高齢などの理由で自分では除雪することができない世帯や、除雪機が入らない生活道路、集会施設など除雪が必要とされる箇所をあらかじめ設定し、作業手順や機械の管理方法など、除雪機を有効に活用する方法を決め、除雪作業を進めていきます。



- 平成20年度に配備した除雪機
- ▼庄原地域
●庄原自治振興区 3台
●高自治振興区 3台
●峰田自治振興区 2台
●東自治振興区 6台
●山内自治振興区 1台
 - ▼西城地域
●五町自治振興区 3台
●五日市公盛会自治振興区 3台
 - ▼総領地域
●五領自治振興区 1台
●稲草西自治振興区 1台
 - ▼東城地域
●川西上自治振興区 2台
●福代自治振興区 1台
●宮平自治振興区 1台
●竹森自治振興区 1台
●上町自治振興区 1台
●粟田北自治振興区 1台
●東城中町自治振興区 1台
●千鳥自治振興区 1台
●川東自治振興区 1台
●塩原自治振興区 1台
●戸宇自治振興区 1台
●久代東自治振興区 2台
●為重自治振興区 1台
●久代中自治振興区 1台

ふるさと 応援寄附金 にご協力を!



財政課理財係 ☎0824-73-1202

ふるさとを応援したいという思いを実現するため、本年度創設した「庄原市ふるさと応援寄附金」。この寄附金を年末年始に帰省される兄弟姉妹や親戚、友人知人の方々へご紹介いただき、「げんき」と「やすらぎ」のまちづくりへの財源確保にご協力ください。

寄附をいただいた方は 特典があります!

- 5千円以上の寄附をいただいた方には、広報誌を1年間お届けします。
- 3万円以上の寄附をいただいた方には、広報誌と併せて合併前の各地域の自然と歴史文化をまとめた市史・町史誌の中からご希望の1巻を贈呈します。

寄附金の状況

寄附金の申し込みは、11月20日現在で、62件645万円です。

「ふるさと庄原、応援する庄原」に対する寄附に心から感謝を申し上げます。また、PRに際し庄原格致高校同窓会をはじめ皆さんの積極的なご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

(単位: 件・円)

指定事業の区分	申込件数	申込金額
①自治及び協働に関する事業	2	510,000
②産業及び交流に関する事業	4	60,000
③環境、基盤及び定住に関する事業	4	60,000
④保健、福祉及び医療に関する事業	15	395,000
⑤教育及び文化に関する事業	14	3,825,000
⑥重点戦略プロジェクトに関する事業	2	35,000
⑦財政健全化への取り組みに関する事業	3	555,000
⑧指定事業なし	18	1,010,000
合計	62	6,450,000

※ふるさと応援寄附金の詳しい内容については、市ホームページ (<http://www.city.shobara.hiroshima.jp>) をご覧いただくか、財政課理財係までご連絡をお願いします。

問い合わせ 自治振興課 (☎0824-73-1209) または各支所地域振興室

庄原市職員を募集

総務課人事秘書係
☎0824731125

職種 身体に障害のある人を対象とした一般事務職

採用予定人員 1人

応募資格 介護者なしに一般事務職として職務の遂行が可能な人で、次の項目のいずれにも該当している人

- ① 昭和53年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた人
- ② 受付期限までに身体障害者手帳の交付を受けている人
- ③ 活字印刷文による出題に対応できる人

◎申込手続

▼試験案内・申込書の配布場所

- ① 配布場所：総務課人事秘書係、各支所地域振興室、西城市民病院
- ② インターネットの利用：市ホームページ (<http://www.city.shobara Hiroshima.jp>) に掲載中の試験案内からA4版用紙に印刷してください。

③ 郵送による請求：庄原市総務課人事秘書係 (〒727-8501 庄原市中本町二丁目10番1号) へて返信用封筒を同封してご請求ください。

○総務課人事秘書係あての封筒の表には「試験資料請求」と朱書き

してください。

○返信用封筒(角形2号/縦33・2cm×横24cm)にあて先を明記し、120円切手を貼ってください。

▼提出書類

申込書に必要事項を記入し、添付書類と併せて総務課人事秘書係へ提出してください。

▼申込締切

平成21年1月8日(木)
郵送の場合は1月8日消印有効

◎試験方法

試験は第1次試験および第2次試験とし、第2次試験は第1次試験の合格者について行います。

【第1次試験】

試験日 平成21年1月25日(日)
8時10分受付開始

試験会場 庄原市ふれあいセンター(庄原市西本町四丁目5番26号)

試験科目 教養試験、事務適性検査、作文試験

【第2次試験】

試験日、会場、試験内容は、第1次試験合格通知によりお知らせします。

◎採用予定年月日

平成21年4月1日採用予定

健康広場

Healthy column

「新型インフルエンザ」

庄原赤十字病院
感染管理認定看護師 山根 啓幸



新型インフルエンザの脅威

『新型インフルエンザ』という言葉覚えていませんか？ 昨年の広報しよばら10月号では、インフルエンザH5N1・通称『鳥インフルエンザ』が、ヒトからヒトに感染するよう形を変えて、新型インフルエンザとなる可能性があると話しました。その『鳥インフルエンザ』ですが、実はその後も世界各地で猛威を振るっていて、平成20年11月現在、患者数387名・死者245名、死亡率は63・3%と依然高い状況が続いています。(国立感染症研究所感染症情報センター)

現在、『鳥インフルエンザ』のワクチン接種が、一部の大学病院などで始まっていますが、効果が未知数な上、まだ安全性が確立されていません。抗インフルエンザウイルス薬【タミフル】の備蓄も進んでいますが、備蓄数は予定量の4分の1以下と依然不足し、それをどのようにに分配・使用するか決まっています。入院施設もありますが、日本人の4人に1人(3,200万人)が感染し、死亡者は64万人に達すると予測されているにも関わらず、専用病床は県内全体で22床のため、現実的に入院治療を受けられる状況ではないと考えます。新型インフルエンザが世界各地で爆発的に流行する状況『パネデミック』になると、実際、多くの方が感染・発症します。

日ごろの予防が大切

《新型インフルエンザのパンデミック》

40%の労働者が欠勤することが予測されるため

- 医療・診療体制が崩壊する
 - 交通手段が使えなくなる (公共交通機関の停止・ガソリン供給の停止)
 - 学校や保育施設が閉鎖される
 - 食品や日用品の供給が滞る、または停止する
 - 電気・ガス・水道が使用できなくなる
 - 治安が悪化し、盗難・強奪等が増える など
- ※以上のことが全国各地で同時に発生します



このような危機的状況に対し、本年度から庄原市(備北地域)では、「備北地域感染症専門部会」という組織を中心に、市・保健所・警察・消防・医師会・庄原赤十字病院が連携・協力し、新型インフルエンザの対策を進めています。しかし、その対応には限界があり、併せて市民の皆さん一人一人の対応・予防が重要だと考えます。ご自身だけでなく大切な家族・友人を守るためにも、インフルエンザに負けない体づくりと予防に努めましょう。

年間を通して注意すること

- 外出後(帰宅時)、必ずうがいと石けんを使って手洗いをを行う
- 十分に休養をとって、抵抗力を高める
- 日ごろからバランスの良い食事、栄養素をとる

インフルエンザ流行期(通常11月～4月)に注意すること

- 人が集まる場所や病院に行く際は必ずサージカルマスク*を着用する
- ※症状の有無に関わらず、来院されるご自身やご家族、入院患者さんの身を守るためにとても重要です。通常のガーゼマスクは効果が低いので、『サージカル』と名のつくマスクもしくは、『ウイルス除去率～%』というマスクを着用しましょう。
- インフルエンザワクチンを接種する
 - 人混み、繁華街への不必要な外出を控える
 - 新型インフルエンザの情報に耳を傾ける
 - インフルエンザ流行地への旅行や訪問を避ける



安心・安全な毎日のために

庄原消防署 ☎0824-72-9911
東城消防署 ☎08477-2-4005

平成20年度全国統一防火標語 火のしまつて 君がしなくて 誰がする

石油ストーブなどの安全な取り扱い



この時期は、ストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。ストーブによる火災の主な出火原因をみると、可燃物の接触、落下、引火、ふく射、使用方法の誤り、消し忘れ、使用中の給油などが原因となっています。

- 特に次の点に注意するよう心がけましょう。
- 給油するときは、灯油であることを確認する。
- 火をつけたまま給油したり、持ち運んだりしない。

- 周りに燃えやすいものやスプレー缶などを置かない。また洗濯物を干さない。
- 灯油タンクのキャップは締まっているか必ず確認する。
- 就寝・外出時には、完全に消火する。
- 定期的な部屋の換気を行う。

防火による火災の防止

当消防署管内における平成19年中の火災原因の第2位は「放火の疑い」でした。侵入されやすい場所、人気のない暗がりでの放火が目立ちます。

- 地域ぐるみで放火されない環境づくりをしましょう。
- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 車庫や物置などにもカギをかける。
- ゴミは収集日などルールを守って出す。
- アパートの廊下や階段などの共有部分に燃えやすいものを置かない。

平成21年 庄原市消防出初式

新春を飾る消防出初式が行われます。とき 1月11日(日) 9時30分 ところ 市総合体育館



政策推進課

バイオマスを身近に感じる一日
しょうばらバイオマスフォーラム2008

見て・聞いて・ふれてバイオマスを身近に感じてもらうため、市とSARUプロジェクト会議は11月15日、リサイクルプラザで「しょうばらバイオマスフォーラム」を開催しました。

会場では、ペレットストーブの実演即売やペレットボイラーの展示、木製リサイクル品の販売や林業体験コーナー、さらには、(株)ジユオンが実施している木質バイオエタノール実証実験の見学な

ど、バイオマスに関するイベントに多くの人が集まりました。

また午後からは、庄原市で長年研究を続けている県立広島大学の森永力教授が、「庄原市におけるバイオマス有効活用の可能性」と題して講演し、約120人が参加。地元にも豊富に存在するバイオマス資源の有効活用について、これまでの研究成果を交えて話しました。



森永教授の講演(上)、ペレットストーブなどの展示(下)

商工観光課

地元就職を支援し定住へ
庄原市合同企業説明会

本年度第2回目となる庄原市合同企業説明会を11月9日、東城支所で開催しました。

この説明会は、市の「待つとるよ！庄原定住プロジェクト」の二環として、地元就職を希望する中途求職者や大学生、Uターン・Iターン希望者と、地元企業との出会いの場を設け、庄原市への定住を促進しようとするものです。

この日は、製造業・社会福祉事業など、市内企業9社が参加。

会場では、学生から中高年までの参加者が、それぞれの企業ブースを訪ね、熱心に採用担当者の説明に耳を傾け、質疑応答が行われました。

また、庄原市による定住相談コーナーも設け、幅広く定住に関する情報も提供しました。

商工観光課では引き続き、定住相談などを受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

(☎0824-73-1178)



採用担当者がパソコンを使用して説明

生涯学習課

大学の知識・技術を市民へ
県立広島大学市民公開講座

県立広島大学市民公開講座を10月29日から11月25日、県立広島大学庄原キャンパスで開催し、5回の講演に延べ約200人が受講しました。

この公開講座は、大学の持つ専門的で高度な知識・技術が学べるよう、県立広島大学が開校した翌年の平成2年から始まり、今年で19年目になります。

今回の講座では、「温故知新・

見つめなおす庄原の宝」をメインテーマに、5人の先生が「中山間地域の商品づくりと販路拡大」「食と農を考える」「限界集落と地域おこし」など、地域に密着した5つの話題でそれぞれ講演しました。

来年度も引き続き、6月下旬からの前期と10月下旬からの後期の2期に分けて、実施する予定です。



武藤徳男教授の「食と農を考える」講座

総務課

シンボルツリーを設置
新庁舎建設の進捗状況



クレーンでシンボルツリーを吊り上げる

支所
市民生活室
健康づくり講演会
健康づくり講演会
健診結果を生かそう

健康づくり講演会を10月28日、口和老人福祉センターで開催し、約40人が参加しました。

これは、健康づくりと病気に

なすの体の今とこれから」と題して講演しました。

服部医師は、「健診結果からどの部分に異常があるのか、また警告を発しているのかをよく把握することによって、日々の生活を見つめ直すきっかけになる」と説明。また、最近よく耳にするメタボリックシンドロームについても触れ、「健診結果の中からもメタボリックシンドロームの

予防や改善もできる」と話し、健診結果を今後の生活に生かすことの重要性を呼びかけました。



講演する服部医師

新庁舎建設工事の進捗状況は10月末現在で約50%、5階までの床・外壁のコンクリート打設といった躯体工事が完了しました。

11月1日には、地域木材の振興やPRを兼ねた高さ約12m、幹周り約2.5mのシンボルツリーを庁舎内へ建て込みました。

今後は、内装工事、外壁タイル工事、屋根工事等の仕上げ工事と平行して、電気・空調機械設備などの工事を行い、来年2月末の完成を目指します。

武者やサザンカの花飾りを挿した「母衣」など、総勢約100人の行列が、城下町の風情が残る東城の町並みを約3キロ練り歩きました。



にぎわう市街地



出番を待つ「母衣」
体育館にきれいに並べられた「母衣」



姫の微笑み
「きれいね」と声をかけられ、にっこり

伝統行事 お通り

11/2

Photo gallery



お通り人形登場
東城まちなみふらり散歩ギャラリーで展示された
手作りの人形



武者行列
時代絵巻を感じさせる武者行列



観客の視線
カメラを手にシャッターチャンスを狙う



ワクワク初化粧
口紅を塗られ少し緊張

華やかな行列

華やかな「母衣」の行列が人気



市政トピックス

優良ハイブリッド バスを導入

備北交通が試乗説明会

市民
生活課



滝口市長も試乗

11月17日、備北交通(株)が中
四国地方で初めて導入した「優
良ハイブリッド・ノンステップバス」
の試乗説明会を庄原市街地で開
催しました。

このバスは、ハイブリッド仕様で、
発進・加速時など大きな力が必
要な際にモーターが作動して駆動
力をアシストします。減速時など
には、電動機を発電機として作
用させ、減速エネルギーを電気エ
ネルギーに変換してバッテリーに蓄
えます。これにより、平成17年
排出ガス規制の規制値に対し、窒
素酸化物や粒子状物質などの排

出量が10%以上低減されます。
さらに、乗降時に段差のないノ
ンステップ仕様となっているほか、
乗降口付近の音声案内や誰にで
も見やすい運賃表示など、新し
い機能が満載されています。

地球にも利用者にもやさしいバ
スとして、市も補助金を交付し、
バスの導入を支援しました。

試乗会の参加者は「音も静か
で乗り心地もいい」と話していま
した。

11月18日から本格運行が開始
され、主に庄原〜三次間を運行
しています。

女性
児童課

父親をもっと 楽しむ 秘訣を学ぶ

男性の家庭参画講座

男性に、家庭への関わりをもつ
と楽しんでもらおうと、「男性の
家庭参画講座」を10月28日から
12月7日、4回シリーズで行いま
した。

11月11日には、第2回の講
座「子育てが楽しくなるコーチン
グ」を庄原市保健センターで開
催。講師の赤木淳子さんは子育て
で経験を交えながら、「子どもの
失敗に、つい『なんで?』って言い
がちですが、返ってくるのは言い
訳ばかり。そんな時『どうした
らいい?』と聞いてあげると、子

どもは自分で解決策を考え出し
ます」などと、子どもの力を引
き出すコミュニケーション術を指導
しました。

参加者は、話の聴き方、相手
への尋ね方などを実践し、「カッ
ときても自分を抑えられる懐の
深さを身につけたいと思った」な
どの感想が寄せられました。

また、講座の前に行ったミニク
ッキングでは、家族へのプレゼント
として、高野りんごを使った「フ
レッシュゼリー」と「アップルパイ」
を作りました。



アップルパイを作る参加者



各地で行われたイベント&話題をお届けします

● 創立 100 周年を祝い、飛躍を誓う
庄原実業高校が記念式典

11月8日、庄原実業高等学校で創立100周年記念式典が行われました。学校関係者や同窓生、在校生などが出席し、長年の歩みを振り返るとともに、飛躍を誓いました。式典で、梶原督三校長は『農は国の基』の基本理念を忘れず、地域社会の期待と信頼に応え、魅力的でしかも特色ある農業高等学校への追求を進めていきたい』と述べました。式典後、元力士の舞の海秀平さんが『決してあきらめない』と題して講演。アトラクションでは、在校生による花田植や花笠音頭が披露され、100周年を祝いました。庄原実業高等学校は明治41年4月比婆郡立実業学校として開学以降、約18,000人の卒業生を輩出しています。



「実業(なりわい)の道」と刻んだ記念碑の除幕式

● 50 周年を祝いイベント
防犯組合連合会が記念式典



サンフレッチェ広島少年サッカー教室

庄原警察署管内防犯組合連合会は11月16日、設立50周年記念式典を庄原市上野総合公園で開催しました。式典には、各地区防犯組合や庄原警察署、防犯関係団体などから約260人が参加。会長は『今後も関係機関、団体の皆さんと連携して活動していきたい』とあいさつしました。開会式の後、サンフレッチェ広島のコーチによる少年サッカー教室が開催され、市内のサッカースポーツ少年団の児童約80人がプロの技術を身近に感じていました。また、県警音楽隊による音楽演奏が行われ、アニメや最近の流行の曲など10曲を披露。防犯キャラクターの『モシカ』も駆け付け、防犯意識を高めようと呼びかけました。

● 紅葉狩りと秋の味覚を堪能
帝釈もみじまつり

「帝釈もみじまつり」が11月2日、帝釈環境改善センターで開催され、市内外から約800人が訪れました。20年ぶりに復活したこの祭りは、帝釈自治振興区が中心となって企画。会場では、地元産の松茸を入れたうどんや、鮎の塩焼き、イノシシ肉の串焼きなどが販売され、来場者は里山料理を楽しみました。また、鬼神太鼓の演奏やもちつきの実演も行われ、会場を盛り上げました。紅葉狩りに訪れた観光客は『イチョウやカエデが色づきとてもきれい。松茸や栗など秋の味覚も堪能でき、楽しい一日になりました』と喜んでいました。



中国人研修生による手作り餃子や栗おこわなどを販売するバザーコーナー

● 城下町の魅力を丸ごと楽しむ
東城まちなみぶらり散歩ギャラリー



手作りの人形が並ぶギャラリー

10月25日から11月5日までの12日間、東城町本町筋で「城下町東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。古い城下町の風情が残る500軒の町並みを丸ごとギャラリーにして、店舗など52カ所で、手作りの人形や骨董品、芸術作品を展示したり、地元食材を使った食事を提供したりして、大勢の観光客でにぎわいました。今年は、100年前に東城の住職が描いた風景画の展示や、酒蔵ならではの雰囲気を残したギャラリーも加わり、観光客は『素晴らしい作品ですね』『かわいいですね』と地元の人に話しかけ、交流を楽しんでいました。期間中の11月2日には、伝統の『お通り』も開催され、華やかな彩りを添えました。

● 大菊など 500 鉢が競演
しょうばら菊花展



全体の形が美しい懸崖花壇

しょうばら菊花展が11月1日から14日、庄原市民会館特設会場で開催されました。菊づくり愛好者ら22人と、市内の4小学校が出品。大菊三本立てや、だるまづくり、懸崖など、約500鉢の力作が展示されました。

● 芸術の秋、力作ぞろい
庄原市美術展覧会



レベルの高い作品が並ぶ

庄原市美術展覧会の前期展(11月3日～8日)と後期展(11月13日～17日)が、田園文化センターで開催されました。日本画・洋画・写真・工芸・書の5部門に、市民から応募があった作品など174点が展示されました。応募作品の中から34点が入賞し、うち12人が大賞を受賞しました。

● 子育て応援の心つながる
支援団体が「こどもまつり」



板橋一心太鼓の力強い演奏

『七塚原は笑顔いっぱい!みんなで遊ぼう～つながろう』をテーマに10月26日、「第8回こどもまつり」が高原の家七塚で行われました。今回は、広島県立畜産技術センターの一般公開も同時開催され、約1,800人の親子連れでにぎわいました。このイベントは子育て世代を応援しようと、市内の各団体で構成するこどもまつり実行委員会が企画。庄原実業高等学校吹奏楽部のファンファーレで幕開けし、板橋一心太鼓や県警音楽隊の力強い演奏で盛り上がりしました。子育てサークルやボランティアのアトラクション、保護者や地域の方による手作り感あふれる体験コーナーでは、子どもたちが雨にも負けず楽しんでいました。今年は環境への取り組みもあり、「マイ箸をつくろう!コーナー」に多くの親子が参加しました。

● 命の尊さを育む授業 比和中が保育実習



中学生が絵本の読み聞かせ

11月13日、比和中学校3年生の18人が、妊娠から出産・子育てを通じて命の大切さを学ぶ総合学習の一環として、比和保育所を訪れました。

比和中学校では、これまでに庄原赤十字病院の助産師や市の保健師による妊娠と出産についての講義や、妊娠疑似体験などでこの学習を進めてきており、今回は、保育所の園児たちと実際に触れ合う保育実習を体験しました。

中学生と園児がそれぞれ自己紹介した後、中学生が企画したレクリエーションで交流がスタート。最初はぎこちない感じでしたが、園児たちもすぐ笑顔になり、中学生による絵本の読み聞かせや手作りおもちゃで楽しみました。

中学生は「最初は緊張したけど子どもたちが笑ってくれた時はすごくうれしかった」「今回の経験を忘れずに命を大切にしていきたい」と話していました。

● 地元ガイドが比和の魅力 をPR バスツアーで比和まちなか散策

11月5日、広島市から「しょうばら さとやまバスツアー」で訪れた観光客31人を対象に、「比和まちなか散策」が行われました。

このまちなか散策は、商店街を中心とした比和のまちなかの歴史を感じてもらおうと、比和支所や地元住民などが企画。参加者は、比和自然科学博物館を見学し、比和の新ソバを食べた後、地元住民の案内で、まちなかの建築物やヒワミズラモグラなどの解説を受けながら散策しました。商店街では、店舗の空きスペースなどを活用し、フォトコンテストの展示や農産物などの販売、新米の無料プレゼントなどが行われました。

参加者は「吾妻山の紅葉とともに比和のまちなかの良さを楽しめた」と満足そうに話していました。



神仏混合の名残を示す名所へ案内

● 喜寿を祝い名所を巡る 社協が「西城ふるさと巡り」

庄原市社会福祉協議会西城地域センターが10月24日、今年、喜寿（77歳）を迎える方を対象に、「西城ふるさと巡り」を行いました。これは、同い年の皆さんで喜寿を祝い、親睦を深めてもらおうと、毎年実施しています。

今回は町内から25人が参加し、比婆山や熊野神社、道後山高原クロカンパーク、久保刀匠の鍛錬道場、宮氏の菩提寺浄久寺など、町内の名所をバスで巡りました。

参加者は、「77歳になれば、このふるさと巡りに参加できると楽しみにしていました。同い年のみんなと顔を合わせて元気が出た」と話し、秋の一日を楽しんでいました。

社協西城地域センターでは、「たくさんの方に喜んでもらえてうれしい。これからも皆さんが元気になってもらえる事業を企画していきたい」と話していました。



浄久寺で県天然記念物の「カヤ」の木を見上げる参加者

● 新生児を応援するカーブに感謝 りんご農家がカーブ選手へプレゼント



カーブ選手へ贈るりんごを詰める生産者

広島東洋カーブ・庄原市コラボレーション事業「新生児応援プロジェクト」に感謝し、高野町果樹園芸組合と高野りんご加工組合が11月7日、カーブ日南キャンプへ高野りんごとりんごジュースをプレゼントしました。

新庁舎・新球場と同じ平成21年生まれの「新生児」に、カーブ選手の手形やサイン、メッセージ入りの特製色紙をプレゼントする「新生児応援プロジェクト」。りんご農家は、広報紙などでこの取り組みを知り、カーブ選手への感謝とお礼の気持ちを込めて、この事業を応援したいと市へ相談しプレゼントを決めました。りんごの品種は「陽光」と「ジョナゴールド」で、4^号ケースそれぞれ6箱と、りんごジュース6本入り2箱を贈りました。

高野町果樹園芸組合の田中定美組合長は「赤ヘル色のりんごと、そのエキスの詰まったジュースをたくさん食べて、しっかり体を鍛えて来シーズンに備えてほしい」と話していました。

● 真空管アンプを聴き比べ 口和郷土資料館が開館 30 周年

口和郷土資料館が11月、開館30周年を祝い、さまざまなイベントを開催しました。

11月15日には、「球楽達人の集い」と題して、手作りの真空管アンプを持ち寄り、音楽の聴き比べを行いました。

市内外から参加した約40人は、クラシックから歌謡曲・ジャズまで思い思いの曲を流し、真空管が灯す柔らかな光とスピーカーから流れる音楽でいやしの空間を楽しんでいました。デジタル音楽機器となっている昨今、参加者は「懐かしい響きがある」「音が柔らかくて聴きやすい」などの感想を話していました。

このほか、開館30周年イベントでは、戦後国産第1号のピアノによるコンサートや口和町の歴史を語る講座、ふれあいシネマ、市内の作家による草木染め展などが行われ、多くの人でにぎわいました。

安部博良館長は「これからも多彩なイベントと展示で“ふるさと”をPRしていきたい」と話していました。



真空管アンプを聴き比べる参加者

● 5年ぶりの開催、いきいきと発表 総領小学校学習発表会

総領小学校学習発表会が11月8日、5年ぶりに開催されました。

「9ひきのねこ」や「はたとぶ総領に」など、子どもたちは学年ごとに、国語や総合学習の授業で学んだことを劇などにして発表。夏ごろから苦労して準備を進めてきた子どもたちは、舞台上でいきいきと自分の役割を果たしていました。

最後は全校児童92人で元気に合唱し、会場から大きな拍手が送られました。



2年生の劇「スイミー」。手作り衣装を着て元気に発表。

生活相談

Life consultation

身体障害者補装具判定会

【聴覚】 12月18日(木) 受付 13時～14時

備北地域事務所第3庁舎 ※1週間前までに 社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-731-2110

人権相談(特設)

各地域で人権擁護委員が相談に応じます。

▼庄原地域 とき 1月13日(火) 13時30分～16時30分

▼東城地域 とき 1月8日(木) 13時30分～16時30分

▼口和地域 とき 12月18日(木) 13時30分～16時30分

13時30分～16時30分 ところ 比和文化会館

▼総領地域 とき 1月13日(火) 9時～11時

総領健康福祉センター 三次人権擁護委員協議会 ☎0824-621-2572

定期巡回児童相談

備北こども家庭センターが子育てに関する相談に応じます。

▼庄原地域 とき 12月18日(木) 10時～15時

▼知的 とき 1月13日(火) 13時30分～16時30分

障害者相談員定期相談会

【庄原地域】 とき 1月12日(月) 13時30分～16時30分

Table with 5 columns: 学科, 募集人員, 受験資格, 修業年限, 受付期間, 試験日. It lists details for two nursing courses: 第一看護学科 (60 people) and 第二看護学科 (20 people).

三次看護学校学生募集

問い合わせ 県立三次看護専門学校 ☎0824-62-5141

ところ 庄原市ふれあいセンター相談室

※事前予約もできます。 社会福祉課障害者福祉係 ☎0824-731-2110

健康相談

広島県備北地域保健所 (三次市十日市東) で実施する健康相談です。事前に電話でご予約ください。秘密は厳守します。

心の健康相談

ストレス、うつ病などの心の健康に不安のある方やその家族からの相談に応じます。 とき 12月16日(火) 13時～14時30分

Eイズ検査・相談

検査は無料・匿名で受けられます。結果はその日にお知らせできます。相談は随時受け付けています。 とき 1月14日(水) 13時～15時

申し込み・問い合わせ

備北地域保健所 保健課保健対策係 ☎0824-631-5181

「庄原文芸」第37号原稿

庄原文芸は、市民の皆さんの文芸活動の広場です。今年も次の要領で原稿を募集します。

応募資格 庄原市文化協会加盟のサークルに所属している人、および庄原市内に在住・勤務・通学の人、もしくは当協会より特別寄稿をお願いした人。

募集部門 詩(一人一篇)、短歌(二人四首)、俳句・川柳(一人六句)、写真・絵(二人一点)、小説・随筆・創作・記録など(一人一点)

出稿料 原稿用紙1枚を1,500円とし、以後1枚増すごとに500円を加算してください。

文中に写真を挿入される場合は、写真E版1枚を原稿用紙1枚分に換算してください。

「写真・絵」部門は、誌面1ページ使用のため原稿用紙3枚分になります。(出稿料2,500円、カラー15,000円)

なるべく各サークルでまとめて、次の口座まで振り込んでください。

無料登記相談所

司法書士などによる「無料登記相談所」を、毎月第2木曜日に開設します。

登記申請手続きなど、登記に関することなら、何でもお気軽にご相談ください。また、予約も受け付けますので、ご希望の方は三次支局(☎0824-1621-5070)までご連絡ください。

とき 1月8日(木) 10時～12時 13時～15時

ところ 庄原市ふれあいセンター

問い合わせ 広島法務局 民事行政調査官室 ☎0821-2281-5690

募集

Collection

新しいお見合いのカタチ

まずはお父さんお母さんでお見合い交流会

独身の子を持つ親同士の情報交換会です。出会う機会が少ない子に代わって、親同士が情報を交換し合い良縁を探します。当日は、子の写真やプロフィールを持ってご

放送大学学生募集

放送大学は、テレビ・ラジオなどを利用して授業を行う正規の通信制大学です。平成21年4月に入学する学生を募集します。入学試験はありません。

募集期間 12月15日(月)～ 2月28日(土) 資料請求・問い合わせ 放送大学広島学習センター ☎0821-2471-4030

でください。

郵便振替 口座番号 0139013150520

名義 庄原市文化協会 「庄原文芸」係

応募締切 1月31日(土) 送付先 〒727-0005

庄原市川手町1318-3 「庄原市文化協会・庄原文芸」係

林 武志 宛

その他 原稿用紙は縦書きです。文字は丁寧にお書きください。作品には、住所・氏名をお忘れなくご記入ください。

お問い合わせ 林 武志 ☎0824-721-32286

備北短歌大会作品募集

備北地域の文芸活動の交流を深め、地域文化の発展を図る短歌大会です。

作品 自由詠一人2首以内(自作・未発表のもの)所定の出詠票による。 出詠料 1首につき1,000円(出詠時に納入)

参加ください。詳しくは商工観光課へ早めにお問い合わせください。

漬物伝承講座

庄原市の新鮮な野菜を使ったおいしい漬物、田舎の味に挑戦してみませんか。 とき 1月29日(木) 9時30分～12時

ところ 食彩館しょうばら 「ゆめさくら」

内容 ・サラダ感覚漬付け ・白菜漬け

参加費 漬物樽(10リットル程度)を持参される方 500円 持参されない方 1,000円 定員 30人程度 申込期限 1月16日(金) 申し込み・問い合わせ 農林振興課農業振興係 ☎0824-731-1132

その他

特別慰労品の贈呈

恩給欠格者、戦後強制抑留者および引揚者の皆さんに対して、内閣総理大臣名の「特別慰労品」を贈呈しています。

過去に内閣総理大臣名の書状などを受けた方、または書状などの請求をしなかつた方も対象です。

ご本人からの請求に基づいて贈呈されますので、ご遺族などは対象になりません。

請求期限は、平成21年3月31日です。請求書類は、社会福祉課および各支所担当室にあります。

特別慰労品は、対象者の区分に応じ、それぞれ右欄に掲げた特別慰労品のうち、ご希望のもの1点になります。

問い合わせ

独立行政法人 平和祈念事業特別基金 無料電話 0120-234-9933

（月）金、9時15分～17時15分 社会福祉課障害者福祉係 0824-731-2110

Table with 2 columns: 対象者・区分 and 特別慰労品. Rows include 恩給欠格者, 戦後強制抑留者, and 引揚者.

※1. 対象者の区分の2つ以上に該当する場合であっても、いずれかの区分の特別慰労品1点のみ。 ※2. 外地とは、日本の国土からみて、外国の土地。第二次大戦敗戦前に、本土以外の日本領土を呼んだ語。

家屋の取り壊しや 新増築の届け出を

固定資産税は、その年の1月1日現在に、固定資産（土地、家屋、償却資産）を所有している方に課税される税金です。

家屋を取り壊された場合や、災害などによって家屋が滅失した場合には、「家屋異動申告書」を税務課または最寄りの支所税務担当係に提出してください。

取り壊しまたは滅失した家屋の固定資産税は、翌年度から課税されません。

また、家屋を新築・増築した場合や、家屋の用途を変更された場合（住宅から店舗へ、店舗から倉庫へなど）も、あわせて連絡をお願いします。

問い合わせ 税務課資産税係 0824-731-1144

工業統計調査にご協力を

12月31日を基準日として、工業統計調査を実施して、

ます。この調査は、製造事業を営む事業所を対象に、その活動実態を明らかにすることを目的とし、その調査結果は、経済白書の作成に利用されるなど、国や地方公共団体の行政施策の重要な資料として利用されます。

今年はずべての製造事業所が調査対象になります。年末年始にかけて、ご多忙中とは思いますが、対象となる事業所には調査員が伺いますので、調査に対するご協力をお願いします。

なお、提出していただいた調査票については、統計法に基づきその内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

問い合わせ 企画課広報統計係 0824-731-1159

橋梁の点検にご協力を

市は、本年度から4年間で市が管理する約1100橋の道路橋の長寿命化および橋梁の修繕・架け替えに係る費用の縮減を図り、合理的で効果的に維持管理をす

るため、橋梁長寿命化修繕計画を策定します。

本年度は準備作業として、市が管理する橋梁の位置や構造などの現地情報を収集する作業を業者に委託し12月から実施します。この作業で、橋梁に隣接する個人の所有地に立ち入りをさせていただく場合があります。ご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ 建設課第1木係 0824-731-1152

Advertisement for e-Tax and Shizuhara Legal Association. Includes text: 「この社会あなたの税がいきている」 and contact info for 庄原法人会.

水道管にも冬じたくを

本格的な寒さを迎える季節となりましたが、水道管の防寒対策は万全ですか。

気温がマイナス4度以下になると、防寒の不十分な水道管は凍ったり、破裂したりすることが多くなります。水道管が破裂して漏水が起これば、修理代や水道料金などを負担していただくことになるばかりでなく、水源の無駄使いにもなります。

凍りやすい水道管は、タオルや毛布、専用のチューブなどを使って必ず防寒し、破裂事故を防ぎましょう。

凍ってしまったら...

凍った部分にタオルをかぶせて、その上からぬるま湯をゆつくりかけて溶かしてください。

破裂したら... 水道メーターボックス内にあるバルブを閉めて、お近くの指定給水装置工事業者に修理を依頼してください。

問い合わせ 水道課工務係 0824-731-1170

あっぱれ庄原

全国レベルの大会出場者、全国・県レベルの大会、市が共催する各種大会などの上位入賞者を掲載します。（敬称略）

全国大会

JOCジュニアオリンピック 2008全国卓球選手権大会 (11月22日～24日・宮崎県) ▼14歳以下の部 7位 中田一也 (庄原中2年)

県大会

広島県高校駅伝 (11月2日・三次市)・優勝 松井智靖 (世羅高1年・高町) 藤川拓也 (世羅高1年・水越町)

広島県民体育大会・陸上競技の部

(11月9日・尾道市) ▼男子中学生4×100m 5位 庄原中 (田辺優作、松田 佳、門世鴻佑、森信匠吾) ▼男子中学生200m 5位 松田 佳 (庄原中3年)

▼女子中学生砲丸投げ 4位 川本奈月 (庄原中3年)

広島県防犯連合会

防犯作文 優秀賞 溝口もえ (西城中2年) 広島県公衆衛生大会 環境啓発ポスターコンクール 優秀賞 吉浪 明 (西城中3年)

その他

庄原市民健康づくり グラウンド・ゴルフ大会 (10月19日) 上野総合公園陸上競技場 ▼男子団体の部 優勝 庄原3 (清水忠昭、佐藤禎征、若山隆史、久山佐和人、船頭 宏) 準優勝 帝釈A

（村上征二郎、加藤公民、木村逸則、小林幹雄、瀬戸昭静） 第3位 西城1 (吉原正登、柳生重登、下田三三、牧原廣登、主田重登) ▼女子団体の部 優勝 庄原8 (渡部和江、篠原愛子、瀬尾二三、市川千枝、竹下悦子) 準優勝 高野2 (瀬尾トシコ、赤水高子、飯島月恵、中村美恵子、名越和子) 第3位 帝釈C (伊藤ハルミ、川辺スミコ、瀬戸コシズ、八藤トシ子、野口明代) ▼男子個人の部 優勝 渡部 保 (庄原2) 準優勝 小谷汎史 (東城上A) 第3位 船頭 宏 (庄原3) ▼女子個人の部 優勝 中村美恵子 (高野2) 準優勝 瀬尾トシコ (高野2) 第3位 八藤トシ子 (帝釈C)

Advertisement for Sokuuri Real Estate. Includes text: 住友不動産 新築そっくりさん 広島東営業所 and contact info: 0120-356-218.

Advertisement for Sokuuri Real Estate. Includes text: 住みなれた今のご自宅が “新築の輝き” で甦ります and logo for Sokuuri Real Estate.

農業委員会委員選挙
人名簿登録申請書

農家の皆さんは提出を
この申請書は、10アール以
上の農地を耕作されている
皆さんに、毎年提出してい
だいています。

12月19日ごろ、申請書を
郵送しますので、早めに提出
してください。

なお、25日までに用紙が届
かないなど、不明な点があり
ましたら、農業委員会事務
局までお問い合わせくださ
い。

提出方法 同封の返信用封
筒で農業委員会へ返送して
ください。

提出期限 1月10日(土)
問い合わせ

農業委員会事務局

0824-73-1133

または各支所地域振興室



市内の主な施設 年末年始の業務状況

年末年始の業務予定については、次の表の通りです。■の部分
が休業日となりますのでご確認ください。
なお、「出生」、「死亡」、「婚姻」など戸籍に関する届け出や、
埋火葬、斎場使用の許可手続きなどは、休み中
でも取り扱います。詳しくは担当課までお問い合わせください。

施設名	電話番号	12/27(土)	28(日)	29(月)	30(火)	31(水)	1/1(木)	2(金)	3(土)	4(日)
市役所(本庁・各支所)	☎ 0824-73-1123									
保健センター	☎ 0824-72-7074									
田園文化センター	☎ 0824-72-1159									
総合体育館	☎ 0824-72-8000									
ふれあいセンター	☎ 0824-75-0301									
市民会館	☎ 0824-72-0849									
西城市民病院	☎ 0824-82-2611	(救急対応は24時間実施しています)								
時悠館	☎ 08477-6-0161									
ごみ処理	収集									
	持ち込み	備北クリーンセンター	☎ 0824-72-2044							
		リサイクルプラザ	☎ 0824-72-1398							
		東城クリーンセンター	☎ 08477-2-0214							
東城資源ごみ集積所		☎ 08477-2-1026								
市金庫(庄原市指定金融機関派出)	☎ 0824-73-1142									

■が休業日 ※その他の施設については、直接各施設へお問い合わせください。

備北丘陵公園
だより



35万球、光の森のファンタジー
～ハートフル&
ファンタスティック
イルミネーション～

備北公園管理センター
☎0824-72-7000 (http://www.bihoku-park.go.jp/)

「北入口会場」の2会場に
なりました。

「メイン会場」は、これまで
イルミネーション会場となっ
ていた中入口周辺で、「北入
口会場」は、今年4月にオー
プンした北入口周辺を中心
とする会場になります。

北入口会場の見どころ

庄原市街地から国道43
2号線を上った正面の入口
が「北入口」です。赤い屋根
の「エントランスセンター」国
兼「国兼池を望む」湖畔広
場があり、これらの施設に
ダイナミックなイルミネー
ションを展開します！

☆イルミネーションツリー
(高さ約24m)

大きなつぼのツリーが新
登場！公園の外から見られ
るかも。白く輝くLEDのツ
リーは必見です。

☆光のガーデン「ハート&
ローズ」(幅約100m、
奥行き約50m)

湖畔広場を埋め尽くす
光るばらの花、その中心に

は光輝くハートが。エントラ
ンスセンターの2階テラスか
らの眺めは、きつとロマンチッ
クな気分になってくれます。

☆イルミネーション
ディナーも楽しめる！

エントランスセンター2階
に「展望レストラン」にか
ねがオープン。ホテルシエ
ラが腕によりをかけたフレ
ンチディナーをお楽しみい
ただけます。

期間中の土・日曜日と12
月20日(土)～12月25日
(木)に営業。ディナーは予
約制で、1日30名様限定、一
人3,500円です。

ご予約・お問い合わせは「中
の茶屋」
☎0824-72-7211

メイン会場の見どころ

「棚田の光る森」や「光と
音楽のスターライトツリ
ー」、「ビッグパネル」など、お
なじみのイルミネーションに
加え、今年は「オーロラの森」
が登場します！

夜空に神秘的にゆらめく
オーロラをイメージしたイル

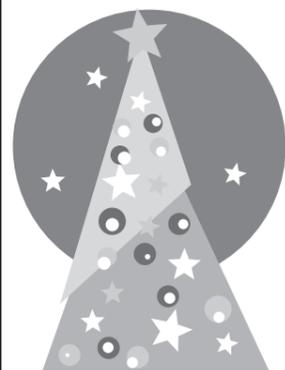
ミネーションは、長さが約80
mもあります。空には星座
のイルミネーションも輝いて、
星物語を表現しています。
オーロラが降り注ぐ北の
街の景色をぜひご覧ください。

平日も開催中！

期間中は、平日も21時ま
で毎日(8月(月)、15日(月)
は休園)点灯し、平日が断
然おすすめです(ご入園は
20時まで)。

年末年始の開園日

年内は30日(火)まで開
園します。31日(水)、1月
1日(祝)は休園日となり、
新年は1月2日(金)から
開園します。



広告 メガネの御用命は「敬ちゃん時計店」及び「メガネハウス タケダ」をご利用下さい。

12種類のレンズが選べるセット
《メガネ出来上り価格》
レンズ付一式 **¥19,000**

①スタンダードレンズ ⑦くもりにくいレンズ
②非球面レンズ ⑧遠近両用レンズ(初めの方へ)
③薄型非球面レンズ ⑨遠近両用レンズ(薄型でスリキリ)
④超薄型レンズ ⑩遠近両用レンズ(ドライブレ)
⑤ガラスレンズ ⑪中近両用レンズ(デスクワークに最適)
⑥調光ガラスレンズ ⑫近々両用レンズ(手元がワイドに)

●その他、各種価格のメガネも出来ます。

金・プラチナ買取専門ショップ

**金・プラチナ
お売り下さい**

宝石箱の中で眠っているリングやネックレス、
デザインが古くなって使っていない貴金属、是非お持ち下さい。

宝石・メガネ・時計・補聴器・修理

〒727-0012 庄原市中本町2丁目1-3
TEL.(0824)72-0377

メガネ・補聴器の職人技

メガネハウス **タケダ**
— Professional shop of glasses —

〒727-0013 庄原市西本町2-19-1
ジョイフル 2F
TEL.(0824)75-0037

宝石・バッグ・舶来ウォッチ

〒728-0013 三次市十日市東4-1-30
ショッピングセンター サングリーン2F
TEL.(0824)65-0522

広告 住まいの相談所

家の
よろずや
万屋

新・増改築

建築工事業 許可(般-18)第1845号 公共下水道登録番号128号

有限会社 藤本工務店

☎(0824)72-3146

下水道及び浄化槽設置承ります

http://www1.ocn.ne.jp/~fujimo-k/index.html

FUJIMOTO



休日診療のご案内

12月・1月の休日診療については、次のとおりです。

▶庄原地域

12月7日(日)	庄原赤十字病院	☎0824-72-3111
14日(日)	林医院	☎0824-72-0121
21日(日)	戸谷医院	☎0824-72-3131
23日(火)	牧原医院	☎0824-72-0057
28日(日)	河本医院	☎0824-75-0311
31日(水)	林医院	☎0824-72-0121
1月1日(木)	戸谷医院	☎0824-72-3131
2日(金)	庄原赤十字病院	☎0824-72-3111
3日(土)	牧原医院	☎0824-72-0057
4日(日)	笠間医院	☎0824-72-0535

※庄原赤十字病院については、救急患者に限ります。

▶東城地域

12月7日(日)	三上クリニック	☎08477-2-1151
14日(日)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255
21日(日)	東城病院	☎08477-2-2150
23日(火)	瀬尾医院	☎08477-2-0023
28日(日)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255
29日(月)	細川医院	☎08477-2-0054
30日(火)	東城病院	☎08477-2-2150
31日(水)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255
1月1日(木)	日伝医院	☎08477-2-2180
2日(金)	東城病院	☎08477-2-2150
3日(土)	三上クリニック	☎08477-2-1151
4日(日)	こぶしの里病院	☎08477-2-5255



市税・水道料金・下水道使用料納付は口座振替が便利です

手続きは各金融機関の窓口でお願いします。

※残高確認も忘れないでください。

- ▶ 税務課収納係 ☎0824-73-1145
- ▶ 下水道課管理係 ☎0824-73-1175
- ▶ 水道課業務係 ☎0824-73-1197

広報日記

▶ 今回の特集取材で、食料の国内生産が12兆円、輸入が6兆円、合わせて18兆円が、最終的に80兆円の消費に膨らんでいるのを知って、付加価値をつけることの大切さを改めて感じました(7ページ参照)。これまで農村は、もうけることへの抵抗感があるのか、『損をしても喜ばれればいい』と人が良すぎたのかもしれない。しかし、利益を出し生産が続けられてこそ、地域の継続的な発展があると思います。これからは少し「地域資源をマネーに」することを一緒に考えてみませんか。(※)



犬・猫の引き取り 環境衛生課 ☎0824-72-1398

12月・1月の犬・猫の引き取りは、次の日程で実施します。なお、手続きには認印が必要です。持参してください。

庄原地域	毎月第1～第4火曜日 12月9・16日 1月6・13・20・27日	11:00～11:10 東自治振興センター 11:25～11:35 仮庁舎 11:50～12:00 数信自治振興センター
西城地域	毎月第1・第3木曜日 12月18日、1月15日	9:00～ 9:10 西城支所前
東城地域	毎月第1・第3木曜日 12月18日、1月15日	9:40～ 9:50 小奴可研修センター 10:20～10:30 東城文化会館
口和地域	12月第3金曜日 12月19日 1月第4木曜日 1月22日	11:40～11:50 口和支所前駐車場
高野地域	12月第3金曜日 12月19日 1月第4木曜日 1月22日	13:20～13:30 高野支所横
比和地域	12月第3金曜日 12月19日 1月第4木曜日 1月22日	13:50～14:00 比和支所
総領地域	毎月第2水曜日 12月10日、1月14日	9:40～ 9:50 総領支所 (スクールバス駐車場)

庄原地域の12月23日は、祝日のため定期収集がありません。口和・高野・比和地域の12月は変更しています。



人の動き (10月末日現在)

- ▶ 住民基本台帳登録人口
人口 41,813人(前年比-802人)
男 19,818人(前年比-388人)・女 21,995人(前年比-414人)
世帯数 16,114世帯(前年比-103世帯)
- ▶ 外国人登録人口
人口 337人(前年比+7人)



男女共同参画コーナー 女性児童課 ☎0824-73-1243 男女共同参画シンボルマークを募集します!

来年度、男女共同参画社会基本法制定10周年を迎えるにあたり、男女共同参画シンボルマークを広く募集します。

● 募集内容 男女共同参画推進を広く呼びかけるためのシンボルマーク

● 応募締切 12月26日(金)(必着)

● 応募方法 応募用紙により、電子メールまたは郵送にて送付

[応募・問い合わせ先]

内閣府男女共同参画局総務課広報啓発係 ☎03-3253-2111

詳しくは男女共同参画ホームページをご覧ください

http://www.gender.go.jp/symbol/symbol_bosyu.html

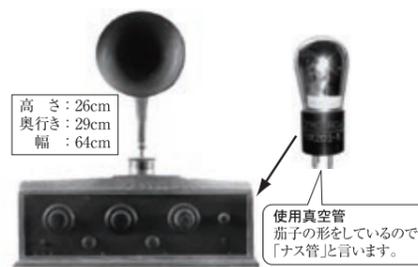
配偶者・パートナーからの
暴力で悩んでいませんか
～あなたは“ひとり”じゃない～

広島県広島こども家庭センター 女性相談課
(配偶者暴力相談支援センター・婦人相談所) ☎082-254-0391
広島県備北こども家庭センター 相談援助課
(配偶者暴力相談支援センター) ☎0824-63-5181(内線2313)
庄原市役所 女性児童課 ☎0824-73-1243

口和郷土資料館 ☎0824-87-2230

開館日 月・木・土 9時～17時

展示品紹介 真空管式ラジオ受信機とラジオ放送



これは、ラジオ放送開始間もない、大正14年ごろに作られた「真空管式中波ラジオ受信機」です。

このラジオは、真空管5本を使用した5球式で、大きな木製の箱に収められ、電源部は別となっています。ラッパ型のスピーカーがついた最高級品であり、大変高価でした。

放送開始当時は、ヘッドホンで一人しか聴けない「鉱石式ラジオ」が一般的でしたが、のちに、「電池」を使った「真空管式ラジオ」のスピーカーで、放送をみんなで楽しめるようになりました。

真空管の発達により、電灯線を電源として使用できるようになり、高価で面倒な電池交換が不要となりましたが、当時のラジオは操作が難しく、簡単に放送を聴くことができませんでした。

戦後は、真空管式ラジオからポケットにも入る小型の「トランジスタ式ラジオ」が出現し、その後の電子技術の進歩で、多機能でより身近な「ラジオ」へと進化しています。

大正14年3月22日、JOAK東京放送局が日本初の「AMラジオ放送局」として開局。これが電波を使って多くの人々へ情報を発信する「放送」の始まりです。その後、昭和26年には民間ラジオ放送局も開局し、昭和30年代後半には「FMラジオ放送」も始まり、音質の良いステレオ放送も楽しめるようになりました。

ラジオ放送の歴史

- ・大正 9年 11月：アメリカペンシルバニア州で、世界初のラジオ放送開始。
- ・大正 14年 3月：JOAK東京放送局(NHKではない)が開局。聴取料⇒月額1円
- ・大正 15年 8月：日本放送協会(NHK)発足。
- ・昭和 3年 7月：NHK広島放送局開局。
- ・昭和 27年 10月：RCC中国放送局開局。
- ・昭和 37年 9月：NHK広島放送局FM試験放送開始(44年本放送開始)。

ラジオの価格(昭和2年当時)

- 鉱石式ラジオ 14～15円
- 真空管式ラジオ
 - ・ 1球式ラジオ 30円
 - ・ 2球式ラジオ 150円
 - ・ 5球式ラジオ 240円 ※昭和2年 米1俵10円

中小企業を応援します

事業資金の借入れは、信用保証をご活用ください。

県・市の預託融資制度、および各種保証制度で幅広くサポートします。

信用保証のご利用は、お取引の金融機関、県市商工担当課、商工団体、または信用保証協会備北支所へご相談ください。

問 広島県信用保証協会 備北支所 ☎0824-62-3917



市民ギャラリー「アート多愛夢」情報BOX

市街地の空き店舗を活用した、各種展示ができる市民ギャラリーです。

★1月の展示案内★

「赤木式創作折り紙展」

とき 9日(金)～12日(月) 10時～17時

「創作折り紙教室」

とき 10日(土) 13時～15時30分
干支(丑)の折り紙色紙づくり

問 庄原市文化協会事務局 ☎0824-72-4347(白川)
商工観光課商工観光係 ☎0824-73-1179

※展示を希望される団体(または個人)はお申し込みください。使用料はかかりません。



「ふれあい市長室」の日程

とき 1月10日(土) 9時～12時

ところ 西城支所

※公務により実施できない場合もあります。

※道路の改良・維持・修繕などの

要望、陳情は、事業担当課へお願いします。

問 企画課広報統計係 ☎0824-73-1159



ゆめざくら

☎0824-75-4411

【12月～1月のイベント情報】

- ▶ ゆめざくら講座
 - ◎癒しの空間づくり kouza
～お正月のこけ玉・松竹梅～
とき 12月19日(金)
第1回10時30分～ 第2回13時30分～
参加費 3,600円 定員 各12人
 - ◎草木染め教室
～スカーフを染めましょう～
とき 1月14日(水) 10時～12時
参加費 2,400円 定員 10人
- ▶ 展示
 - ◎干支・えと展
期間 12月18日(木)～1月31日(土)
※12月22日～25日は歳末感謝祭



しょうばら九日市

毎月9日は、しょうばら九日市

★出店者募集中! あなたのお店を開こう。

★毎月20日が出店申込締切です。

★申し込みは

交流サロンラッキー ☎0824-72-0075 まで

1月 (とき) 1月9日(金) 10時～14時
(ところ) 中本町商店街周辺 (のぼりが目印)

詳しくはHPで <http://kunchi-ichi.main.jp>